



再生可能エネルギーの国デンマーク

Renewable energy in Denmark

デンマーク

コペンハーゲン市の挑戦

コペンハーゲン

「CPH2025気候プラン」

コペンハーゲン

グリーンでスマート、カーボンニュートラルな街

2050年に化石燃料ゼロをめざすデンマーク政府と歩調を合わせるように、首都コペンハーゲンではCPH2025気候プランを制定している。それは、2025年までに人口を20%増の65万人としながらも、世界初のカーボンニュートラル首都を目指す挑戦的なプラン。この実現のために、エネルギー消費、新エネルギー創出、環境に配慮した交通手段、都市運営の4つの分野にフォーカスを当て、取り組みが進んでいる。

環境に配慮した交通手段

CPH2025では、コペンハーゲンにおける全移動手段の75%を徒歩、自転車、公共交通とし、中でも通勤通学は自転車利用を50%にする目標を掲げている。この背景には政府の環境政策がある。デンマークでは運輸のためのガソリンとディーゼルオイルは、エネルギー税、NOx税、CO2税など、重く課税されており、これに新車の取得税と燃費に応じた高率な物品税が課せられているため、自家用車を所有するハードルは高い。政府は2050年までに輸送部門で100%再生可能エネルギーを使用する目標を掲げている。現在、市内には自転車用レーンが整備され、部分的に追い越しレーンも設けられ、約1/3の市民が快適に自転車を利用している。コペンハーゲン市での自転車走行距離の総合計は1日あたり約120万kmで、これは、地球から月までのおよそ2往復分に相当する。

蘇るハーバーエリア

コペンハーゲン市の南にあるスルセホルメン地区は、デンマーク港の延長線にあるベイエリア。かつては、工業用水で汚染されており、ここで泳ごうなどと考える人はいなかった。市の旧式の下水設備と地元企業からの工場排水によって水質は汚染され、整備されない状態のまま、この地域全体の荒廃も進んでいた。



しかし下水設備を近代化することにより飛躍的に浄化され、2002年には市営の水泳場がオープンするまでに改善した。周辺ベイエリアでは2025年までに住宅と商業施設も含めた再開発が進む。ここではスイミングクラブも組織され、市民は氷が張った厳冬でも水泳を楽しみ、市中心部の活性化に大きく貢献している。

オアスタッド地区の街づくり

オアスタッド地区はコペンハーゲンの中心部から鉄道で10分以内の位置に開発されている地域。主要空港や、デンマークとスウェーデンを結ぶオアスンド橋からも近距離にある。

計画では、オアスタッド地区は住宅地と商業地が隣り合わせて併存するミックスタイプの都市として開発される予定。この地区は大きく4つのエリアに分かれており、地下鉄、道路、運河、水域、自転車道などで結ばれている。これらのエリアは開発の進行度が異なり、独自の特徴を持っている。オアスタッド北部エリアはすでに完成しており、アマー国有地エリアでは部分的に開発が進んでいる。オアスタッド地区ではすでに施設の利用が行われ、南部地区では住宅への入居が始まっている。

現在、オアスタッド地区の居住人口は約5千人で、家族構成、年齢などに合わせて大小さまざまな規模の住居が建設されている。就業人口は約1万人だが、15~20年後には、居住人口は2万人、就業人口は6~8万人まで増加すると想定されている。



- 1 メトロには、先頭車両と最後尾を除き自転車積み込みができる
- 2 スルセホルメン地区に2002年オープンした公衆水泳場
- 3 オアスタッド地区では地上を運行するメトロ
- 4 自転車レーンと並走する公共バス
- 5 コペンハーゲン市の橋のたもとにある、通過する自転車をカウントし利用促進をPRする表示ボード
- 6 メトロに自転車を積み込み出動する市民
- 7 さまざまなデザインの自転車が行き来する交差点
- 8 ユニークでありながら採光・断熱に優れた建物が立ち並ぶオアスタッド地区の都市開発
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13